KIFA Report

河内長野市国際交流協会

Vol. 103

Oct. 2017

25周年を迎えたKIFA
グローバルな時代(いま)こそ
ローカルな国際交流(ふれあい)を大切に

- アルゼンチンタンゴ＆国際フリーマーケット
- 多文化の部屋　台湾の話
- 多文化の部屋　インドネシアの魅力
- 多文化の部屋　バックパッカーの達人
- 夏休み子ども絵画教室
- 国際料理教室～アルゼンチン編～
- コンニチハ！日本語サロンです
- 世界とつながろう！

〒586-0025　大阪府河内長野市昭栄町 7-1　キックス 3F　http://www.kifa-web.jp　Tel 0721-54-0002　office@kifa-web.jp

7月16日　市民交流センター　イベントホール

世界一周気分でお買い物？

「ハロー」「こんにちは」「シンチャオ」「コモエスタ」「ガマルジョバ」「オラー」「セウラマットシアン」「ナマステ」など各国の挨拶でお出迎えの中、猛暑にもかかわらずたくさんの人が続々と来場してきます。最初に珍しい食べ物のお店は人だかりになりました。ペルーのとうもろこしジュース、スリランカはエッグロティや春巻きフライ、カナダは「ナナイモバー」というチョコレートケーキ、ベトナムからはお茶とコーヒーもあり、もちろん南大阪の産物を使ったお弁当やジャム、手作りケーキなども並んでいます。来場者もあの国この国と味の世界一周です。

一息ついて次は異文化交流の体験を楽しみました。ベトナムの女性とアオザイの話で盛り上がったり、カナダのブースではチョコレートケーキの作り方を聞き、ジョージアのところでは大相撲の話も出ていました。言葉や肌の色は違っても皆さん笑顔で楽しそうです。

魅惑のアルゼンチンタンゴ

オープニング
を飾る
ダンスパワーズは、
若さあふれる元気な
パフォーマンス！

イベントホールではロベルト・デ・ロサーノ＆マコさんたちの演奏が始まりました。「エルチョクロ」を皮切りにラテンバラードの名曲を次々と歌い会場も一気に盛り上がってきました。

つぎにタンゴアンサンブル「コケータ」の登場です。タンゴの名曲の演奏が始まりました。タンゴの華といわれるバンドネオンの音色に満席のお客さんたちも聴き入っていました。舞台には、流れるようにタンゴダンスのエルネスト＆アヤのお二人が登場です。タンゴの生演奏に合わせて舞台狭しと滑るように踊るお二人は、本当に美しく華麗なステップを披露していました。さらに、タンゴの曲に合わせて、衣装を３回もチェンジし、来場者を楽しませて頂きました。皆さんはアルゼンチンのエレガントダンスに釘づけでした。タンゴのリズムに包まれた会場に、アルゼンチンの風が流れてきたようです。

生のタンゴ演奏やダンスは初めての人も多く「バンドネオン素晴らしい」「ダンスもっと見たかった」「広い会場でやってほしい」など大感激、最後は「ブラボー」の声がかかりました。

アルゼンチンタンゴのワークショップは、数十人の参加がありエルネスト＆アヤさんのリードでタンゴステップを練習しました。体を左右に動かしてペアで歩くだけでも大変です。「お腹は体と一緒にね」「バラバラはダメよ」「後ろも気を付けて」など先生の激励が続きます。男女ペアになりワイワイと楽しく踊ることが出来、皆さん笑顔満開で楽しみました。参加者は「本場のタンゴを経験出来て良かった～」と興奮気味に話して下さいました。

台湾のお話

6月24日　市民交流センター

ゲスト：黄 志濠さん

今年度から始まった「多文化の部屋」。第2回のゲストは、台湾出身の黄志濠さんです。2008年に留学生として来日し、大学院を卒業して現在は府内の会社で働いています。休日はKIFAの日本語サロンに通ったり、ボランティアで中国語を教えたりと、国際交流にも意欲的です。

台湾は人口約2300万人、面積は九州の7分の6くらい。日本との時差は約1時間で、飛行機で行くと2時間半ほどで着くという、日本にとっては身近な海外です。

黄さんはスクリーンに地図や写真、動画を映しながら、台湾の地勢、自然、歴史、文化、産業までを幅広く紹介してくれました。「台湾八景」など景勝地の美しい写真、活気あふれる夜市や屋台の映像などを見ながら黄さんのガイドを聞いていると、日本にいながら気分はすっかり台湾旅行です。

黄さんが動画で見せてくださった台湾オペラ「白蛇伝説」のワンシーンは、白い衣装に白い化粧の女性が舞を踊る姿が美しく、台湾の伝統を感じました。

台湾と言えば、忘れてはいけないのが食文化。台湾は「果物王国」とも呼ばれ、すいか、メロン、マンゴーなどのフルーツが溢れています。また、夜市や屋台などの外食文化が盛んで、朝食も外で食べるのが普通だったそうです。

【質問タイム】

Q：台湾に旅行に行くなら何月がいいですか？

A：おすすめは春、3～5月がいいです。

Q：台湾に行ったとき、焼き餃子があまりなくて驚いたのですが？

A：台湾では99%水餃子です。日本に来て逆にびっくりしました（笑）。

Q：台湾では冷たいものは食べないんですか？

A：台湾の習慣で、ほとんど火を通して食べます。日本に来て、お寿司までチンしちゃったことがあります（笑）。会社では皆さん冷たいお弁当とか食べますが、私は今でも慣れないです。

Q：大陸の人（中国）と台湾の人の言葉の違いは？

A：使う言葉は90%同じですが、発音はちょっと違います。例えば、北京語（中国の共通語）では舌を巻く発音が、台湾では巻かないなど。台湾内でも、北と南や、地方によって違いがあります。

黄さんへの質問は尽きることなく、1時間半の会はあっという間でした。解散後も黄さんに話しかけたり、中国語学習の相談をしたりする方の姿もあり、「もっと気軽に国際交流」という多文化の部屋のコンセプトが実現していることを感じました。

インドネシアの魅力

7月22日　市民交流センター

ゲスト：テグ・セチア・アヌゲラハさん

「多文化の部屋」第3回のゲストは、インドネシア出身で在大阪インドネシア総領事館にお勤めのテグ・セチア・アヌゲラハさんです。同じくインドネシア出身のプジアッティさんも、ジャカルタの美しい伝統衣装をまとって来てくれました。

実は、テグさんが首にかけている布も、サルーンという伝統衣装。筒状になっていて、すっぽりかぶって胸の部分で折り返すとスカートになり、「いいね！」「かっこいい」と歓声が上がりました。

インドネシアは、人口約2億3000万人（2010年）。1万3400以上もの島々からなる国土に約300の民族が暮らし、500以上の言語がある多文化の国です。島や地方によって、話す言葉も家の造りも異なります。西ジャワで生まれたテグさんはスンダ語を話し、お母さんの母語もスンダ語ですが、中央ジャワ出身のお父さんの母語はジャワ語でした。そのため、家では共通語のインドネシア語で会話していたそうです。

日本と違って、インドネシアでは全ての人が宗教をもつ義務があります。約80%がイスラム教ですが、ほかにもヒンドゥー教、仏教、キリスト教など多様な宗教があります。

お話のあとは、インドネシアの伝統楽器アンクルン体験です。アンクルンは竹製の楽器で、揺らすとカラカラと涼やかで綺麗な音が鳴ります。参加者の方に1つずつ持ってもらい、譜面の番号とテグさんの合図に合わせて鳴らしていくと、見事「きらきら星」の演奏に成功！拍手喝采で盛り上がりました。

休憩タイムには、インドネシアの紅茶と、テグさんの奥さん手作りの「イサゴレン（揚げバナナ）」というお菓子をいただきました。衣に包まれたバナナが甘くとろりとしていて、「おいしい」と大好評でした。

1時間半というひとときでしたが、テグさんのお話、衣装、楽器、お茶とお菓子で、インドネシアの文化と魅力を五感で感じられました。行ってみたいな、インドネシア。

バックパッカーの達人　～100カ国の旅～

8月20日　市民交流センター

ゲスト：浜田 知宏さん

4回目を迎えた多文化の部屋、今回は異色のゲストでした。お迎えしたのは、2か月前に中国から戻られたばかりの河内長野在住の浜田 知宏さんです。

ご存知のようにバックパッカーとは、装備一式を詰め込んだザック（バックパック）を背負い、ツアーではなく、自分で行程を決めて旅する旅行者のことです。バックパッカーの、しかも達人ということで、野性味溢れる、ごつい感じの男性をイメージしていましたが意外とスマートな方でした。

浜田さんの海外渡航回数はなんと48回、訪問国数も今年100カ国を突破したそうです。その中にはハネムーンも入っていて、もちろんバックパッカースタイルだったそうです。

講演では、「写真で巡る海外の旅」ということで、浜田さんが撮影された写真を見ながら話をうかがいました。聞きなれない国もあり、地図で場所を確認しながら写真を拝見しました。浜田さんがお気に入りといわれる場所の写真は意外に繊細で乙女チックなものが多く、ロマンチストの一面もうかがわれました。紹介のあった穴場スポットの観光だけでなくホノルル・マラソンやニューカレドニア・トライアスロン国際レースに参加したり、氷河の氷を削って作ったオンザロックを楽しんだりとか普通のパッケージツアーでは経験できないことも沢山楽しまれたようです。

バックパッカーの旅ですので、宿舎はホテルではなく、ゲストハウスやホステルと呼ばれる簡素な宿とのことです。時には現地の方の家でお世話になったこともあるそうです。私たちが海外旅行をするときに、心配なのは言葉ですが、こんなに沢山の国を訪問され現地の方と接しておられるのに、不思議なことに言葉で困ったというお話は一切ありませんでした。語学も達人なのか、強心臓で乗り切られたのかは定かではありませんが、言葉や文化が違っていてもやはり一番大切なのは人と人との触れ合いということなのでしょうか。

「自分には絶対無理」と思いながら、猛暑の中、涼しい部屋で小旅行を楽しませていただきました。

夏休み子ども絵画教室　～君の絵を姉妹都市に届けよう～

8月8日　市民交流センター　創作工房

講師：船本礼子先生、船本清司先生、船本大輔先生

小学1年生から中学生まで23名の子どもたちが、こんがり日焼けした腕に絵の具セットを抱えて、続々と創作工房にやってきました。今日は夏休み恒例、河内長野市の姉妹都市カーメル市に送る絵を制作する、子ども絵画教室です。

まずはカーメル市交流活動事業部の後藤部長が、スライドでカーメル市のことを簡単にご紹介。「カーメル市はアメリカのインディアナ州にあります。ではその場所は？」「カーメルにないのはタクシー？バス？電車？」など、クイズ形式で盛り上がりました。そしていよいよ絵画教室スタート！

今年は墨と和紙という日本ならではの素材を使って、ちぎり絵を制作します。絵のテーマは、鳥、花、昆虫、海、ドラゴン（お話の世界）の5つ。「大きく描いてね。あとで筆と墨で描いていくからね」という先生のアドバイス通り、花グループでは、さっそく画用紙半分くらいのお花を描く女の子がいましたよ。ダイナミック！昆虫、鳥、海のグループは、頭を寄せ合って図鑑を見ながら何を描こうかと首をひねります。「虫のからだは3つに分かれています。足がどこから出てるかよく見て」など、テーマごとのアドバイスも。

ドラゴン（お話の世界）のグループでは、「浦島太郎でもいい？」「大きなカブは？」と、空想力全開でお喋りしているうちに、空飛ぶ魔女やウサギ、虹、童話のワンシーンなど、一人一人の個性溢れるファンタジックな絵が生まれていきました。

下描きができたら墨でなぞり、平筆で糊を塗って和紙を貼っていきます。慣れない和紙の扱いに最初は苦戦していた子どもたちも、先生に表現のヒントをもらって、感覚をつかむともう夢中！「七色の海」や「レインボークワガタ」など、今ここにしかない世界ができていきます。和紙という普段使わない素材が、みんなの発想や独創性をぐんぐん広げているようでした。締めくくりは、完成した絵を持って全員で記念撮影。

日本ならではの和紙の風合いを活かしたカラフルな23作品に、カーメル市の人々も感激するに違いありません。約4時間という長丁場を、みんな本当によく頑張ってくれました。元気と集中力は、最高の原動力ですね！

今回できた絵はカーメル市に送られ、「世界で一番小さな子ども美術館」に展示されます。また、秋には河内長野市内でも展示されるので、皆さんもぜひご覧ください！

※市内での展示についてはインフォメーション（P. 7）をご覧ください。

国際料理教室 ～アルゼンチン編～

9月2日　市民交流センター　食工房

今回の国際料理教室は、アルゼンチン出身・日系三世のシバ・リリアさんを講師にお迎えして、アルゼンチンの家庭料理を教えていただきました。

★メニュー★
- 3種のエンパナーダ（牛ミンチ、シーチキン、コーン）
- ミックスサラダと人参サラダ
- ひよこ豆のスープ
- アロス・コン・レチェ
- マテ茶

エンパナーダは小麦粉を練った皮で具を包んだ料理で、アルゼンチンでは家庭でもお店でもパーティーでも食べる定番フードです。現地ではエンパナーダ用の皮が市販されているそうですが、今回は皮作りから挑戦! 小麦粉、ラード、ぬるま湯、塩を混ぜてこね、冷蔵庫で休ませてから伸ばして丸く切り、具を包みます。油で揚げる作り方もありますが、今回はヘルシー＆手軽なオーブンで焼くスタイル。ラードの効果で皮はサックサク、中はジューシーにおいしく仕上がりました。参加者のインドネシア男子２人にも好評で、「どの具が一番好き?」と聞くと、「お肉!」と笑顔で即答。自分で作ると、おいしさもひとしおですよね。

ひよこ豆のスープは、セロリやトマトなどの野菜がたっぷりで食べ応え満点。アルゼンチンの子どもは、「大きくなるにはスープを食べなさい」と言われて育つそうです。

デザートは、牛乳と砂糖でお米を煮た「アロス・コン・レチェ」。日本人には驚きの組み合わせですが、ひんやり甘～い味わいはバニラアイスみたいで、夏に嬉しいスイーツでした。お好みでシナモンを振りかけて、ぜひお試しを。

情熱の国・アルゼンチンは、料理もエネルギッシュ!「エンパナーダは人が集まるときに良さそう」「ひよこ豆っておいしいね」など、皆さんそれぞれに発見があったようです。外国の食文化を通じて、普段とはちょっと違う食材や食べ方に出会えるのも、国際料理教室のいいところ。次回もお楽しみに!

■問い合わせ・申込み

河内長野市国際交流協会（KIFA）
事務局
〒586-0025 河内長野市昭栄町7-1
市民交流センター（キックス）３階
TEL: (0721)54-0002
FAX: (0721)54-0004
Eメール: office@kifa-web.jp

●日本語サロン スケジュール

月＼曜日	日曜 Sun.	火曜 Tue.	木曜 Thu.
10月 Oct	1・15・22・29	3・10・17・24	5・12・19・26
11月 Nov	5・12・19・26	7・14・21・28	2・9・16・30
12月 Dec	3・10・17	5・12・19	7・14・21

＜開講場所と時間＞
日曜日 Sundays　14:00～16:00
千代田公民館　2階
火曜日 Tuesdays　10:00～11:45
市民交流センター（KICCS）3階
木曜日 Thursdays　18:00～20:00
ノバティ南館3階　ノバティホール

●語学クラス スケジュール

コース		英語 フリートーキング	英語（中級）	英語（初級）	スペイン語（初級）
時間		14:00~15:30	19:00~20:30	19:00~20:30	19:00~20:30
開講日	10月	14	10・24	3・17	6・20
	11月	11	14・28	7・21	17・24
	12月	9	12・26	5・19	1・15

インフォメーション Information

■インドネシア・フェスティバル

と　き：10月21日(土) 11:00～16:00
ところ：市民交流センター　イベントホール
主　催：インドネシアAZARIA
後　援：河内長野市国際交流協会
☆インドネシアの音楽・ダンス・
　ファッション・食べ物 etc.
問合せ：lunafriendship@lunafriendship.com

■多文化の部屋

国際交流協会　設立25周年記念事業

国際交流協会設立25周年を記念し、身近な外国人の方、または外国旅行や海外滞在経験のある市民をゲストに迎え、気軽に楽しく語り合う会です。

第7回　「素敵な姉妹都市カーメル」

経済・文化両面での発展のめざましい姉妹都市カーメルから、姉妹都市委員会 会長のバーバラさんをお迎えして、お話を聞きます。合わせて、9月にカーメルで開催されたアートフェスティバルに当市から参加した２人のアーティストの帰国報告も行う予定です。

ゲスト：バーバラ・モジャーさん
と　き：10 月 28 日（土）　14：00～15：30
ところ：市民交流センター３階　会議室２
参加費：無料
定　員：先着 20 名
申込み：10 月 5 日（木）から受付

■姉妹都市子ども絵画交換展示会

河内長野市とカーメル市の子ども絵画を展示します。

① キックスでの展示
と　き：11月16日(木)午後～11月23日(木・祝)
ところ：市民交流センター1階　エントランス

② 市役所での展示
と　き：11月24日(金)午後～12月1日(金)午前
ところ：市役所　市民サロン

2018年1月21日 設立25周年記念式典＆コンサート！どうぞお楽しみに！詳細は、本誌1月号でお知らせします。

■設立25周年記念講演会

国際交流協会　設立25周年記念事業

旅行者をはじめ、多くの外国の人たちと接する機会が増えました。その中で、日頃あまり情報を得ることの少ない難民をめぐる実情について学びます。

「難民問題の基礎知識」～難民ってどんな人たち?～
と　き：11 月 18 日（土）13:30～15:00
ところ：市民交流センター　大会議室
講　師：中尾　秀一氏 (アジア福祉教育財団
　　難民事業本部　関西支部長代行)
定　員：先着 50 名　　参加費：無料
お申込：電話かメールで事務局まで（受付開始 11月 7日）

■たすけあい広場「災害のあとどうなるの？」

第１部では、災害後に起こることについて学びます。
第２部は、緊急速報に誰もが一目でわかるイラストの導入実現を祝う感謝会。

第１部：講演：「災害のあとどうなるの?」
　　講師：国崎　信江氏　（(株) 危機管理研究所代表）
第２部：エリアメールにイラスト導入感謝会
　　ワークショップ：ＮＴＴドコモ
　　講評：紅谷　昇平氏　（兵庫県立大学大学院
　　防災教育研究センター准教授）

と　き：11 月 19 日（日）　13:00 ～ 16:00
ところ：市民交流センター　イベントホール
対　象：外国人および外国人の支援者　定員：先着 30 名
お申込：電話かメールで事務局まで（受付開始 11月7日）

ゆかたで夏祭り　7月22日

ベトナム、オーストラリア、パキスタン、インドネシアの方たちがキックスで浴衣に着替えて、野作公園の夏祭りに繰り出しました。夜店をのぞいたり、楽しく真夏のタベを楽しみました。

コース		中国語（夜クラス）	中国語（昼クラス）	韓国語（中級）	韓国語（初級）	韓国語（入門）
時間		19:00~20:30	13:00~14:30	13:00~14:30	10:40~12:10	15:00~16:30
開講日	10月	6・20	現在は開講していません	11・25	11・25	11・25
	11月	17・24		8・22	8・22	8・22
	12月	1・15		13・27	13・27	13・27

各クラス受講希望者が10名未満の場合は開講いたしません。ご了承ください。

コンニチハ！日本語サロンです

私のボランティア活動体験談

サ　ジュチュウ
査　樹忠（中国）

私は査樹忠と申します。中国遼寧省から日本に来て16年になります。ずっと河内長野市に住んでいて、河内長野は、もう私の「第二の故郷」だと思っています。これからもずっと河内長野市に住んでいくつもりです。なぜならば、河内長野は住む環境がよく、緑いっぱい、スーパーも近くて便利、病院や福祉施設も完備、住民も親切で住みやすい街だと思います。

私は運動が大好きですが、なんと３回も足を骨折してしまいました。年齢のせいかな。きつかったが日本のすぐれた医療技術のおかげで治りました。

河内長野市役所、小中学校、国際交流協会（KIFA）の人々と交流していると日本社会のボランティアはすばらしいと強く感じています。自分もそのメンバーの一員になりたい気持ちが強くなってきました。日本語サロンの下神先生のお蔭で 2008年千代田公民館で中国語クラスを開きました。名称は「你好会」（ニーハオ会）といいますが今も一緒に勉強しています。学習者はすごくなかよしで、一緒にギョーザを作ったり、カラオケや旅行をしたりしてとても楽しいグループです。その後、国際交流協会の行っている語学クラブの夜の中国語クラスで講師をしています。学習者はやる気満々で勉強しています。

また知り合いの小学生が中国語を勉強したいと言ってきましたので、昨年10月1日から千代田公民館で「初めての中国語」クラスを発足しました。月４回土曜に小学生と大人十数人、皆わくわく勉強しています。

中国語を教える以外に、今年４月から楠小学校の見守り隊に参加しています。毎日帰宅する放課後の生徒達を迎えます。元気な生徒達に「お帰り」「ただいま」「今何時ですか?」と聞かれたりして親しくなって心から幸せだと思います。見守り隊の仕事が大好きです。

また千代田中学校区のイベントにできるだけ参加しています。運動会、防災訓練、納涼盆踊りから学校の清掃などに参加しています。

河内長野市の文化に対する環境はすばらしく、さまざまなイベントが次々と行われ一般市民や青少年にとって幸せだと思います。子どもが健康で成長していくと同時に親である大人も進歩していくのではないでしょうか。

子どもの将来と今後の日本の発展のために、親、先生、社会人の皆様、これからも一緒にがんばりましょう。
ボランティア万歳!万歳!

夏休みこども教室

世界とつながろう！

8月26日（土）　市民交流センター　イベントホール

「世界とつながろう!」のイベントは、地域の外国人と子ども達が実際に交流し、異文化を体験する機会を提供して、子どもたちにグローバルな感覚を、楽しみながら自然に身につけてもらおうというものです。会場には、外国をイメージした５つのブース。各国の案内人はネリーさん（フィリピン）、モヒニさん（ネパール）、ユーエンさん（カナダ）、劉麗さん（中国）、リタさん（ペルー）です。16人のちびっ子たちは KIFA 特製のパスポートを握りしめ５つの国を周ります。各ブースでは、その国の文化や自然の話を聴き「こんにちは」「ありがとう」などの簡単な言葉を教えてもらいました。最初はちょっと緊張気味のちびっ子たちも、すぐに打ち解けて笑い声が。各ブース10分たらずの持ち時間があっという間に過ぎてしまいます。

小さいときに外国の人や異文化に接するのはとても大切な経験です。イベントが終わる頃には、小さな国際人がいっぱい出来上がっていました。

編集後記

最近、「二百十日」「二百二十日」という言葉を耳にすることがなくなりました。立春から数えて210日あるいは220日目ということで台風の特異日を意味したそうです。今年の二百十日は９月１日で、この日が防災の日になったのもその名残でしょうか。そういえば子供の頃、夏休みの終わりや二学期の始まりによく台風が来ました。そのころは、台風が来るといえば、雨戸をつっかい棒で釘付けして、蝋燭を準備した薄暗い部屋で台風の通過を待った記憶があります。普段は怖い父親も交え、滅多にしないトランプのババヌキをしながら…　今思い返すといい思い出です。ところが昨今は、地球温暖化の影響なのか、７月から大型台風が襲来し各地で大きな被害を出していて、いい思い出なんて言うと叱られそうです。

考えてみると、私たちの住む河内長野は、災害の少ない土地です。他所での災害のニュースを見聞きするたびに、当たり前の生活が出来る有り難さが身に沁みます。　isshie

無料メールマガジン配信中！

KIFAの楽しいイベントや情報をいち早くお知らせします。
お申し込みは、事務局または、KIFAホームページから。

http://www.kifa-web.jp/